



おくんちに来ませんか？

同窓会会長 大石 諭



英彦の泉

聖母の騎士学園
同窓会会報

☎850-0012

長崎市本河内2-2-2

TEL 095-823-4523

FAX 095-823-4759

- 第15号 -

今年には異常気象の影響ででしょうか。日本のあちこちで被害が出ています。同窓生の皆様、お変わりありませんでしょうか。

近年、同窓会に出席する人が少な

く、皆さんがたくさん集まる何かよい方法はないものかと考えあぐねておりました。そこで、今年は10月8日(土)に実施することにしました。何故なら、皆さんが、青春時代を過ごした長崎には、毎年10月7(9)日、日本三大祭りの「おくんち」が開催されます。そして、地元長崎では大人気の、「コッコデシヨ」が、今年7年ぶりに奉納されます。是非、この機会に同窓会への参加と、おくんち見物を計画されては如何でしょうか。また、長崎県内には、多数の同窓生がいます。この機会に、是非お集まり頂き、親交を深めて頂きたいと思っています。今回は、先生方の参加もお願いする予定です。きっと、懐かしい顔にお会いできると思います。

愚痴？

聖母の騎士高等学校
校長 崎濱宏美



10分間、これは今年2月13日、私の視界からルドビコ古川和雄神父様が消えて倒れるまでの時間である。その日は日曜日で、聖母の騎士修道院では、いつものように6時10分から朝の祈りが始まっていた。平日は5時45分なので、休日時間であった。やや遅れて入ってきた彼は、祈りに続いて行われるミサには出ず、暫く自席で静かに祈っていた。その日、彼には午前11時からの在世フラ

ンシスコ会員たちのためのミサが決まっていたからである。共同のミサが始まり、第1朗読が終わると、彼は静かにチャペルから出て行った。2月16日、倒れてから一言も声を発することなく、神様のもとへと旅立ってしまった。あまりにもあつ

た。彼は、約1ヶ月後の3月18日に司祭叙階満50周年を迎えることになっていた。彼自身がその日を心待ちにしていたし、人間的な見方をすれば残念だったろうと思うが、彼が目指したのは、あくまでも神様の御心を生き抜き、聖母の騎士として聖母マリア様の道具に成りきることであった。彼の生涯は、初心を立派に貫いた人生であったと言うことが出来



故 古川和雄 神父

ない別れとなってしまうが、修道者としては、最高の逝き方ではないかと私は思っている。実は、私もそのような終わりが迎えられないものと密かに願っているのである。何故かと言えば、日曜日の教会で、生活を共にしている仲間たちと祈り、自分に託された任務を果たすために、まず朝食をとって待機してしようとしていた矢先に倒れたのだ。いわば、聖務のさなかに最期を迎えたのである。加えて、「ここが痛い」「あそこが痒い」「あれが欲しい」等、まったく何も要求することなく、静かに眠り続けてその時を迎えたのだった。

る。カトリックの信仰を土台として彼の生涯の一部を見るだけでもそう断言して良いと思う。

後になった者には、残された仕事の分担である。人は亡くなって初めてその人の負わされていた役割の多さや重さを実感できるのであろうか。校長・理事長としてだけでなく、本職の司祭として、貴重な任務を淡々とこなしていたものだと、あれこれ思い出すたびに驚きとともに、尊敬の念が湧いてくるのである。

私が中学1年生に入学してきた時、彼は最高学年の高校3年生であった。58年も前の事になってしまったが、会員として関わり合った時間もそう短くはなかったと思う。亡くなられてからもう5ヶ月になるが、本河内修道院のコーラス席で共同の祈りに出ていると、彼が私の前で祈っていた姿をよく思い出す。そんな時「もう少し生きていて欲しかったな」と、つい愚痴が口から出てしまいそうな気分になってくるこの頃である。



学園だより

平成22年度 学園祭の餅つき

学園祭と学園劇を隔年で行っていますが、平成22年度は学園祭ナイトフェスティバルを実施しました。

同窓会の餅つきも恒例となり、楽しいイベントの一つとしてその役割を十分に果たしております。同窓生の皆様は、朝早くから学校に集合し、手際よく準備を済ませ、予定通り10時のオープンとなりました。場所は体育館前広場の事務室前、ちょうど聖母像の正面で、マリア様から見守られながら餅つきに精を出すことができました。故古川校長先生もこのときは元気に餅つきに飛び入り参加し、楽しんでおられました。残念ながら事故で急逝されたが、ニコニコとした笑顔が思い出されます。生徒たちもへっぴり腰で弱々しく杵を振り下ろしていました。「もつと、腰を入れろ!」と同窓生から気合いを入れられ、時折、杵を臼の縁に当てながら

も頑張っていました。

つきあがった餅は、同窓生の奥様方によってきれいに丸められ、3個200円で即売されました。出来たの餅はあっという間に売り切れになり、次の餅つきの分まで予約が入るほどの盛況ぶりでした。昼食の間も惜しんで餅をつき、午後1時半頃には完売となりました。

朝早くから参加していただいた同窓生の皆様及び奥様方、大変お疲れ



様でした。ありがとうございました。お陰様で、32000円(里脇氏より5000円の寄付を含む)もの売り上げがあり、諸経費を引いた24747円を生徒会へ渡しました。なお、今回も材料費は木場田さんのご厚意により無料で提供されており、ご夫婦は前日から材料の仕込みまで行っていた、大変頭が下がる思いです。重ねてお礼申し上げます。

今回の餅つきも好評のうちに無事終えることができました。今回は24年度になりますが、回を重ねるごとに参加同窓生の平均年齢が血圧とともに高くなりつつあります。是非、若い同窓生の参加をお待ちしておりますので、よろしく願います。





平成23年度の長崎高等学校総合体育大会が6月3日(金)から始まりました。開会式は長崎市総合運動公園かきどまり陸上競技場で行われ、副校長先生を団長として旗手がバド



ミントン部3年の狩野君、以下26名の生徒が堂々と胸を張って行進しました。バドミントン部は4日(土)から佐世保で団体戦及び個人戦が行われ、剣道部も同じ佐世保で個人戦のみに出場しました。また、バグパイプ部は長崎県総合文化祭連合音楽会(5月28日)に参加しました。結果については、次の通り各顧問より報告していただきました。

【剣道部】

剣道部顧問 廣島誠一郎

高総体の試合結果をご報告します。剣道部は現在部員5名で、団体戦に出場できる部員数ですが、内3名が高校から剣道を始めた初心者なので、今回は個人戦のみに出場しました。

●個人戦 1回戦

3年 水浦久志 (面・胴の2本負け)

対 佐世保西・田中選手

3年生の水浦君にとって最後の高総体であり、気力はとても充実していました。直前の他校との練習試合でも、3勝1敗とよい動きをしていたので、本人の気持ちのなかでも「今年こそは」という意気込みがあったと思われます。しかし、相手選手に試合の主導権を握られ、終

始、相手のペースで試合が展開されてしまったことは残念でした。

開始約1分後に両者飛び込み面を放ちましたが、わずかに相手の面が早く1本先取されました。その後、水浦君も必死に取り返そうと打っていましたがあまくかわされ、最後は面を打ちにいったところを返し胴を打たれ敗退しました。

水浦君は、3年間部活をほとんど休むこともなくまじめに練習し、毎木曜日は自宅近くの道場に通うなど努力していました。その点では下級生たちに対する影響力も大きく、先輩としてよい模範となってくれたと思います。

結果を残すことはできませんでしたが、これからも剣道を愛し、生涯続けてほしいと願っています。

1年 藤 龍平 (面の1本負け)

対 大村工業・森選手

1年生ですが、今回は経験のために出場させました。中学から剣道を始めたので技術面ではまだまだですが、体格もよく剣道に対する熱意もある青年です。試合はよく打っていたと思います。ただ、高総体という大舞台に飲まれ、相手選手に対しても気迫負けをしていたような課題の残る試合内容でした。しかし、



これからの 目標を設定するうえで、よい経験になったと思います。藤君は、剣道に対する取り組みが一生懸命であり、練習態度もまじめなので、これからが楽しみな選手です。

●総評

今回、2人の選手を出場させましたが、応援の他の部員たちには良い刺激になったようです。2年生の和田君や黒岩君、1年生の永松君は初心者ですが、これからの伸びが楽しみな生徒です。応援よろしくお願いたします。

最後になりましたが、部活運営に對し、同窓会から支援金をいただきました。ありがとうございました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。



【バドミントン部】

バドミントン部顧問 飯田友広

●団体戦、1回戦敗退

1-3 佐世保高専

●個人戦ダブルス

狩野・向井組、野元・松本組
が共に1回戦敗退

狩野・向井 0-2 小浜

野元・松本 0-2 西陵

●個人戦シングルス

向井、林田が1回戦敗退。

狩野が2回戦(初回戦)敗退

向井 0-2 佐世保南

林田 0-2 長崎日大

狩野 0-2 小浜

あと一歩で勝てなかった団体戦、力の差を痛感した個人戦でした。

バドミントン部は、部員のほとんどが高校から競技を開始しています。ですから、強豪校には勝つことは難しいものの、自分たちのプレーを賣いて試合に勝つ努力をしてきました。

今年度の高総体は、団体戦1回戦で佐世保高専と対戦し、1対3で敗退しました。第1ダブルスの野元&松本がなんとか逆転勝ちしましたが、第2ダブルスの狩野・向井、第1シングルの林田の相手は強く、思うようなプレーをさせてもらえませんでした。第2シングルの狩野は、1ゲーム惨敗後、2ゲーム目は前半戦で12-10と優勢を保っていました。ところが、ここから連続失点してしまい、もったいない負け試合になりました。個人戦は全て初戦で敗退しました。格上相手に開き直った戦いができなかったことが反省点です。

練習で攻撃型ダブルスやレシーブの強化、粘り強いシングルスなどができるようになりました。そして、社会人の大会に多々出場して試合の経験値を上げてきました。しかし、高総体や社会人の大会で、気持ちのコントロールが必要だと痛感しました。勝ちたい気持ちから力が入って

ミスすることがないよう、指導を重ねていきたいと思えます。

なかなか結果が出ませんが、卒業生の練習参加を含め、これからもご支援をよろしく願います。

【バグパイプ部】

バグパイプ部顧問 熊川武俊

バグパイプ部は、5月28日(土)に、長崎県高文連、器楽・管弦楽部門の「連合音楽会」に参加しました。これは、県下の文化系クラブにとっては最大のイベントです。会場は、長崎ブリックホール。3年生にとっては、この音楽会が、高校生活最後のステージとなりました。2千

人収容の大ホールのステージで、顧問を含めて、わずか3名の演奏は、緊張感で一杯でしたが、バグパイプ特有の迫力のある音で、これまでの練習の成果を精一杯披露できたと思います。

バグパイプ部は、これまで地域の行事、市内の中学や高校の文化祭、諸施設、そして、グラバー園などで演奏させて頂いています。今後も、依頼があれば、出来る限り参加していくつもりです。



平成23年度 聖母の騎士高等学校学園劇 第13回定期公演

東日本大震災復興支援 絵本『アジジの聖フランシスコ物語』出版記念

ものがたり 『アジジの聖フランシスコ』

原作・脚本 崎濱宏美 神父



日時/平成23年11月16日(水)《2回公演》

開演: 1回目 午後1時30分
2回目 午後6時30分

場所/チトセピアホール 長崎市千歳町5-1 ☎095-842-2700

※チケット: 全席指定席: 1,000円
小・中・高生: 500円

※お問い合わせは、聖母の騎士学園 ☎095-823-4523まで。

学園劇を振り返って

◆三特集その1



大学で演劇サークルに

1998年卒業 小林太一

私は1997年に上演した日本26聖人殉教400周年記念劇『風花の丘』に石田三成役に出演しました。石田役を希望したのは「唯一知っている名前だから」という単純な理由からでした。

劇の稽古は放課後におこなっていましたが、本番が近付いてくると、同じ寮の石川君、稲嶺君、福原君らと「こうしたらおもしろくなるんじゃないか」と夜な夜な自習の時間に勝手に演出をつけあって、翌日の稽古で演出家や周りの反応を確認して楽しんでいました。



▲英彦の泉12号より

公演当日は多くのお客さんに来ていただき緊張しました。セリフを忘れてしまわないかと心配で、出番の直前まで呪文のようにセリフを繰り返していたのを覚えています。公演は大成功で、お客さんから大きな拍手をいただきとても満足感を得ることができました。

この経験で私は劇の楽しみを知り、大学では演劇サークルに所属し、卒業時には一人芝居&演出公演の2本だてを行いました。観客には好評を得ました。大学の演劇サークル史上最低の観客動員数でしたが……。

「人は偶然の出来事によって豊かにされる(パンネンベルグ)」という言葉があります。高校時代の劇との出会いは偶然でしたが、私のその後の多くの出会いや経験につながっています。

学園劇はいまも続いていると聞きます。生徒の皆さんは是非手をあげて、参加してみたいでしょう。出てみてもいいかなと考えている方は是非参加してください。出たくなかないかと思っている方は是非検討して

みてください。自ら手をあげて未経験のものに挑戦することで思ってもいなかった出会いや出来事につながっていくと思います。公演を作り上げるのは簡単なことではありません。見に来られる方はお金と時間をかけていますのでそれ相当の練習が必要ですが、きつと良い経験になるはず。皆さんの実り多い学校生活をお祈りしています。

石田三成役、今年の大河ドラマ「江」では萩原聖人、「天地人」では小栗旬が演じておりますが、私に言わせればまだまだですね(笑)。

ゼノ修道士という大役

1996年卒業 東拓郎

聖母の騎士学園同窓会の皆様、ご無沙汰しております。現在は熊本市内に在住しております。昨年、母校を訪問する機会があり、学園生活を懐かしく思い出していたおり、恩師の熊川先生から原稿執筆の依頼をいただきましたので、初めて投稿いたします。

学園に在籍していた3年間は、新大工町の商店街の端、諏訪神社の近くに下宿しており、毎日螢茶屋電停のそばを通り、あの長い坂道を登っ

て通学しておりました。

私が学園劇に参加させていただいたのは高校2年生の時でした。コルベ神父生誕100周年のときの記念講演で、私はゼノ修道士という大役を演じさせていただきました。それまで演劇の経験などなく、不安もありましたが、専門のスタッフに指導していただき、本番では2回の公演を無事終えることができました。多くの仲間とともに、毎日夜遅くまで、体育館で練習していたのは、3年間の学園生活の中で一番楽しい思い出です。学園劇に参加できて、本当によかったなと思います。

その後、学園を卒業し、現在は調剤薬局で薬剤師として働いております。少しでも地域の人々の健康に貢献できればいいな、と思っております。

今後も聖母の騎士学園の発展と、学園劇の継続をお祈りいたします。それでは皆様、お元気で。



▲ゼノ修道士と子どもたち

各地区からの お便り



〜長崎便り〜

「奄美大島に 行ったよ!」

五島市在住 本村義則

ある日のこと。奄美に行くよ!という嬉しい話。以前から行って見ようと思っていたので、参加することになりました。旅行の目的は、「浦頭小教区出身の、中村庄八神父様の足跡を訪ねて。」ということになりました。

一昨年11月、五島福江9時発の飛行機を乗り継いで、奄美空港到着は、何と午後2時を過ぎているではないか!東京より遠い所だった。当日は、団体行動で、小熊神父様のご案内による教会巡礼。翌日は、ミサの後、田下三佐男君と出会い、暫くして同級生の安田孝春君と会うことが出来ました。3人で学生時代のことなどを語り合うことが出来たのは、お恵みであり、喜びと感激で一杯

でした。その日の夜、突然の招待を受け、安田邸へと行くことになりました。手ぶらで出かけてみると、満二郎がいるじゃないか!昔と同じ大きな目、太くて濃い眉、丸四角顔だった。そして、恵、安田、本村の同窓会が始まりました。40数年前の学生時代、同級生や演歌好きの桜本神父、真面目すぎる山下神父などの話で盛り上がりました。自分の顔のことはよくわからないが、2人も顔立ちが変わらないまま、年だけは隠せないと感じた夜でした。我々の話につきあい、もりあげてくれた田下幸次、三佐男、そして久保君には大変お世話になりました。有り難う!

奄美大島では、沢山の方々にお世



話頂きました。聖心教会、浦上教会の信徒の皆様、小熊神父様、青堀君と奥様。そして、聖母の騎士の同窓生の皆さん!お陰様で、感動と感激の時を過ごすことが出来ました。心から感謝!です。

〜長崎便り〜

無礼者

長崎県在住 近藤伊織

学生時代を振り返ると、先生方に多大な迷惑をかけていたことを思い出す。中学の頃、一学年わずか5人の私達の教室は二階にあり、そこはちょうど職員室の真上にあった。血気盛んな私達が教室で暴れ出すと、職員室では天井から「ドスン!ドスン!」と音が鳴り響き、コンクリートの粉塵が「パラパラ」と降り注いだ。血相を変えた先生が私達の教室にやってくる。そんな先生方に対して私達はヘラヘラ笑ってやり過ぎそうと思っていた。ほんとに失礼な中学生5人組だ。

そんな私も今年4月から長崎の中学校の教師として働かせていただいている。カトリックの中学校で少人数、我が母校と似ている雰囲気である。幸い、失礼な中学生はおらず、

素直で良い子どもたちに恵まれている。もしも、ここにあの失礼な中学生がいるとしたら...考えただけでもゾッとしてしまう。同じ職業になつて先生方の苦勞が少しはわかるようになった。本当にお世話になりました。

先生方に迷惑をかけてきたことと引き替えに楽しい思い出を沢山作らせて頂いたわけだが、高校卒業後、他の4人と連絡の取れないまま月日が流れてしまった。酒も飲める年になつたので、同窓会というか、もう一度集まって当時のいろんな話を肴に一杯やりたいものだ。そのときは、一番迷惑をかけた当時の担任の先生を招待できればと思っている。

〜長崎便り〜

学生時代の思い出

長崎県在住 川村隆公

私が、聖母の騎士高等学校を卒業して4年の月日が経ちました。

現在、長崎にあるグループホームのデイスーパーで、介護福祉士として働いています。

私の、学生時代の思い出といえは、遠足や修学旅行、友人達と遊んだ事など、沢山ありますが、一番の

思い出といえ、新入生歓迎バーベキュー大会です。入学当初、このような歓迎会があるとは知りませんでしたので、先輩や先生方、それから同級生達と何を話せばいいのかわからず、妙に緊張していた事を覚えています。今思うと、私のような緊張しやすい人間でも、スムーズに高校生活になじめるようにという学校側の心遣いがあった事に気づかされま

す。前述の通り、現在、私はデイサービスで働いています。この仕事で大切な事は、何と言っても人に対する心遣いです。私は、サービスに来られる方々を、聖母の騎士で教えられた「心遣い」でお迎えをするようにしています。

高校時代、何気なく参加していた様々な行事の中に、後から考えると何かしら私たち生徒に役立つものを教えてくれる貴重なものがたくさんあったと今更ながら思います。最後になりますが、今の自分が、あるのは、先生方のご指導が、あったからだと思います。本当に私をここまで成長させて頂いてありがとうございました。

楽しい高校生活を送れることが出来ました。これからも、後輩達のことをよろしく願います。

「長崎便り」
暫く前までは
先ばかり見ていました。

長崎県在住 匿名

暫く前まで先ばかり見て生きていました。この頃は後を振り返る時が多くなったような気がします。年が増えたとし……長い友は少なくなっただけ。

50年ほど前司祭に憧れて門を叩いたことを思い出すこともあります。授業を受けても気持ちは上の空、今度の土曜日は英彦山に。日曜日は石見山に、甌岩に……。勉強はうわのそら、3時になったら炊事場におやつのおねだり。

あの先輩、恐かったな。あの人は優しくかった。あの後輩に言い過ぎたかな？
今だったらごめん、素直に言えるかな、許してくれるかな？ なんとなく複雑。

神学生として、まったく縁の無い日々を過ごしていたのだと今になって思えば。いったい何のために神学校に行ったのだろうか？

神様は神学校生活の日々を何のために私に必要とされたのだろうか？ 振り返る日々のこの頃、『私は何の

ために、この命を頂いたのであるか』

先の見えない日々、応えの無い日々、振り返る日々、私だけがこんな日々をすごしているのだろうか？ 寝食を供にしたみんなはどんな日々を過ごしているのだろうか？ どんな思いで日々すごしているのだろうか？

学びの友は今どうしているだろうか？ 逢って、あの頃に戻ってあの頃をともに笑い、ともに語り、あの頃に戻れたら、あの頃の思い出を供に語ることができたら……今頃みんなはどうしているだろう。

学生生活から突然、生きていくための嵐の中に、悲しい涙、幸せと楽しい笑顔、苦しみの中で神様への疑惑……神様わたしに何をお望みですか？ ああ、あの頃みんなに逢いたいな……!!

皆さん時間をつくって集まってください、あの頃をともに思い出して、そしてみんなの近況を一緒に語り合えたらと思……。



▲長崎の路面電車 (長崎玉屋付近)

「千葉便り(関東支部)」
「神学校に来んか。
ごはんはおなかいっぱい
べいたべらるつとよ。」

千葉市在住 徳永義雄

昭和三十三年、小生中一の夏休みも終わろうとする日曜日の夕方、長崎県平戸市の平戸教会の巡回教会であった古江教会で、同じ平戸出身の明松神父様が小生に声をかけてきた神学校入学勧誘の、今というスカウトの言葉である。

「ごはんはおなかいっぱいか」もちろん、ほかの言葉もあったんですけど、このセリフしか思い出せない。

当時の小生は古江小学校の分校を卒業し、ガスがない、水道がない、電気がない、ないないづくしの田舎から、大都會の長崎市内の中学校へ入ったばかりで、十二人兄弟のしりっぽぐらい普通の勉強をしてほしいという親の期待を背負って、兄貴夫婦の家に居候させてもらいながら中学校に通い始めたところでした。

後で聞いた話ではあるが、明松スカウトは小生が先ほどの言葉を耳にする前には、もうすでに親や親せきに了解を取り付け、しっかり根回し

がされていたようでした。親戚のおばさんが言った推薦はこうでした。小生の母に対して、「お前んところは兄弟多いんだから、一人ぐらいよころうが神学校にやっても。」この軽いおばさんの言葉も小生の神学校入学の動機となったかと思うと感謝すべきなんでしょうね。

決して食べ物に困っていたわけではないですが、育ち盛りの少年にとってお腹いっぱいご飯が食べられるというセリフは、小生の心を動かしたに違いありません。ごはんという殺し文句といい、親戚のおばさんから攻めるといふ、外堀から攻める根回しといい、日本のビジネスマンの鑑のようですね。こんな事があった半年後には、聖母の騎士学園の門をくぐっていました。

必修のラテン語を一年生から始めるため、一年生を二回やることになつて、おかげで一年生の成績はそこそこ優秀でしたが、二年生からは実力どおりの成績に安定してしまいました。今でもラテン語は好きですし、グレゴリアン聖歌も大好きです。

さて、私と同じように同窓生のみなさんにも入学時の思い出をお持ちの事と思います。聖母の騎士にいた時間の長さはともかくとして、本河内の坂の上の学校で青春を共にした

仲間達が親交を深めあうことは素晴らしいことですし、おのずと学園の発展を願わずにはいられません。

小生も今年の秋でアラ・フォーならぬアラ・セブンに入ります。

熟年になると、やたらと人恋しくなったり、むかしを懐かしむ気持ちになるのは私だけではないと思います。テニスの為に立石会長の住んでいる川崎まで遠征したり、いままでは川口先輩から再三のゴルフコンペのお誘いに腰が上がらなかつたの、先ほどの七月のコンペにはホイホイ参加させていただきました。

そういう気持ちからか、今年から関東支部の事務局の役を、推薦を頂戴しながら、半分は自ら手を挙げたような格好でお受けさせていただきました。池田新会長をはじめ福田君、山口君、その他若い方々に参加していただき、関東支部の充実と発展のお手伝いをさせていただきます。全同窓生のみなさん、応援して下さい。

何でも受付メール、連絡先と電話は左記まで。

〒262-0002

千葉市花見川区内山町二〇二六
徳永義雄

yocchi-paty@nifty.com

☎090-22656-0313

生徒募集 母校で、ご子息を学ばせてみませんか。

■一般生

- ★1学年1クラスの少人数教育。
- ★学力が高い生徒のために進学コースを設置。実力をアップして上級学校への進学を目指します。
- 1年生:「センター試験対策コース」
- 2・3年生:「国公立大学進学コース」

■神学生(聖コルベ志願院 ☎095-828-0541)

- ★コンベンツアル聖フランシスコ会の神父を目指します。祈りに始まり祈りに終わる生活で信仰を深め、キリスト教指導者になるための知識・教養を身につけます。
- ★高校卒業後は一般の大学で神学以外の専門知識を身につけた後、上智大学神学部へ編入して司祭を目指します。このため高い教養を身につけることが要求されます。
- ★神学生の授業料・生活費は修道会より支給されます。

■校内特待生制度

- ★成績優秀な生徒には特待生制度により奨励金を支給しています。

オープンスクールの開催します。
9月29日 土曜日
お気軽にご来校ください。

※学校見学会は以下の日程で行います。
10月6日(日)、10月20日(日)、11月17日(日)

寮完備

県内外を問わず広く一般生徒のために寮を完備しています。規則正しい生活の中で、秩序と和を学びます。毎日の食事は、専門の業者による栄養管理のもとで提供されます。

聖母の騎士高等学校

長崎市本河内2-2-2 ☎095-823-4523
ホームページ <http://www.seibonokishi-2008.jp/>

身助祭になっています。すぐ下のクラスと高2の時に一緒になりました。それは高2の時2人が辞めて私1人になったからです。その経緯は我々3人（浜村、明松、私）に、もうクラスとして（進級）は駄目だと言われ、私たちは外の学校に行かしてくれと交渉したのですが受け入れてもらえず、結局2人は退学しました。そのクラスの人たちと2年間勉強し昭和40年卒業させて頂きました。小神7年お世話になりました、かかわってくれた全ての人たちに感謝致します。同級生と呼びましょう西田君が1人司祭になりました、山下君が修道士、宮原君、大窄君、真浦君など、皆元気にして居るかな？

その下のクラスは松田神父、磯辺君、安田君、滝下君（多治見教会所属）、この4人には卒業依頼（40年ぐらいかな）初めてお会いしました。他赤尾君、福田君、等段々下のクラスになると全部の人は憶えていません。

さてその下、山下神父、桜本神父たちが同年だったかどうか。赤本君、田上君、田島君、佐世保の高野君、大村の里脇君、日数谷君（二人）等同期だったか？

その下は、同窓会会長大石君、窄口君、石田君、古田君（病の様子、

心からお見舞い申し上げます。大石君を除いて他の3人とはもう何年になるだろう、私が長崎に行った時、古田君の家で酒飲みながら楽しく語らった事を昨日のように思います。あの頃の皆が今こうして頑張っていることを誇りに思います。貴方たちが当時編集していた英彦山（ガリ版刷り）が今の英彦の泉の原型（始まり）になった事は間違いないと思います。もう原稿も少なくなっ

て参りました。

奄美大島の便りを見て、田下君、久保君、安田君、武君、青堀君など小神の頃の面影ありませんね。皆さんお体に気を付けて頑張ってください。まだまだ書きたい事はいっぱいあります、来年もこの続きを書きたいと思えます。特に火災後から今に至るまで3回位書きたいです。

大阪便り

大阪府在住 磯辺浪男

梅雨空が明るくなる初夏の頃、何となく白百合の薫るルルドを思い出す季節になってまいりました。

先日、突然熊川氏より電話を戴き、何か原稿を書いて欲しいとのご

依頼、渋々お受けした次第です。何を書こうかと悩んでいるうちに数日が経ってしまいました。

思えば、聖母の騎士を卒業して今年で47年程になり、既に「アラ還」も遠くになりけりです。毎日毎日仕事に追われる中、ふと立ち止まって思うのは、この年相応に進歩できたか、と考えさせられる今日です。まだ若い頃は少々の無理も何の苦にも感じなかったことが、近年体に堪えるようにならない、体力のなさを痛感しております。

小生、小さな会社を興し30年あまりが経ちました。内外情勢が激動し、業界を取り巻く環境も厳しい中ではあります、聖母の騎士時代に培われた忍耐と精神力に助けられていることを感じ、神に感謝しております。

最近、同じ関西に住んでおられた安田誠君も現役引退し、故郷の奄美へ帰り、「飲み仲間」も少なくなり寂しい限りですが何とか元気に過ごしております。

現役人生70年と言われるこんにち、小生も万年青年を目指して70才まで現役で働ければと頑張っております。「英彦の泉」のスタッフの皆様、いつも有り難うございます。これからよろしく願います。

奄美支部便り

奄美支部の 会長になりました

新奄美支部会長 近藤芳弥



沖繩の梅雨明けと同時に猛暑が始まり、遅れて梅雨明けした奄美はさすが亜熱帯、例年通りの酷暑が続いています。同窓会奄美支部の事務局から会長就任のメッセージでもコメントでもいいからと、親戚の葬儀の最中または携帯電話に、最後の一人だよと催促がきました。

今年の奄美支部の総会で、久保聖一さんの後を引き継いで会長になりました。初代の田下幸次さん、二代目の久保さん、三代目になります、力が及ばない事は分かっています。

草刈りの奉仕作業、聖コルベ記念ミサの実施、ラファエル修道士とゼローム神父の命日ミサ、母校の奨学生基金へのチャリティーバザーの実施、忘年会、今年もスケジュールを立てて昨年同様に行き行く事を支部総会で決定しました。

奄美支部のオリジナル活動を、同窓会のメンバーと共に協力し合いながらお手伝いしたいと思っています。しっかり動いて、飲んで、さら

に親睦を深めて、不景気を吹き飛ばして頑張りましょう！

▼プロフィール

1956(昭和31)年11月22日生まれ、54歳。奄美市名瀬在住、妻と子ども7名、現在両親を介護。聖母の騎士学園に中学1年〜高校1年まで在籍。鹿児島県奄美市名瀬小浜町30-4。株式会社双葉鉄工、代表取締役社長。フタバ有限公司、代表取締役社長。

奄美支部便り
奄美支部の
副会長になりました

新奄美支部副会長 栄 隆之



みなさん、こんにちは。私は聖母の騎士中学校に2年から3年生の1学期まで在学していました。

その後、奄美大島の高校を卒業し、神奈川、大阪等で25歳まで電気関係の仕事をしていました。島が恋しくなり、現在は奄美市の老人保健施設で介護福祉士として働いています。我が家は妻と娘3人の5人家族です。中学校時代、田中先生に指導して頂いたバレーボールを今でも続けており、毎年4〜6回ほどある奄美の社会人大会へ選手として参加しています。また、娘のスポーツ少年団(バレーボール)の指導も引き受

けて、仕事が休みのときにも結構忙しい日々を送っています。

最近の悩みは、体重が105kgになり、それでも汗をかいた後、気にしながら飲むビールのお陰で体重はその都度増え続けています。毎日晩酌をしながらダイエットできる方法を探しているところです。余計な事ですが、同窓会のみなさん、メタボリックには要注意です。

ところで、今年の奄美支部総会で副会長を引き受ける事になりました、役員メンバーの中で一番の若手です。特別に何が出来ると言う訳ではありませんが、先輩のご指導を受けながら同窓会発展のために精一杯頑張るつもりです。どうか宜しくお願いいたします。

奄美支部便り
長崎の思い出

奄美支部 山田光人



早いもので聖母の騎士中学、高校を卒業して28年。卒業後に学校の叙階式?」そして、「一昨年前の初めての同窓会」の二回。訪れるたびに、昔懐かしい思い出をひも解い

ている。

・・・入学への誘い・・・

当時、奄美から多くの諸先輩方が聖母の騎士で学生生活を送っていた。聞くことなすこと全てが別世界。髪の毛は長髪。話し言葉は都会弁。テレビは民放(当時の奄美はNHKのみ)「おら長崎さ行くだー」の軽いノリで入学試験なるものを受け、みごと難関?突破!?

・・・初めての實力試験・・・
中学入学式で初めて見る不揃いのリングたち。見るからに賢そうだった。そこで初めての實力試験、結果は「案の定……」長崎に来た事に一抹の不安を覚える。高校卒業まで「案の定……」は続く。

・・・すばらしきかな寮生活・・・
早朝からのランニング。当時寮の舎監だった阿野先生の掛け声に引張られながら4〜5kmを走る。トテモつらく苦痛のひとつであった。
又、寮は中学1年〜高校3年生までおり、徹底的に長幼有序を叩き込まれる。

・・・その後・・・
専門学校を卒業し、社会に出て27年が経過。今思うと、聖母の騎士の寮生活が社会生活への適応性を培ってくれたのだと思う。
当時の私たちの学生生活を思うと

ついつい我が愚息に注文を付けるが、「時代が違う」の一言。その頃の自分を回想しながら「子育て」そして、「育てられ」を継続中。次回の母校訪問、同窓生との再会の日を思いながら、奄美の夜は焼酎とともに暮れていく。また会う日まで。

奄美支部便り
岸壁の父

奄美支部 川上富久



大学の模擬テストを書き終え、ホッと一息ついて、ふと黒板を見ると、その上に十字架はなかった。

ああ、ここは長崎ではないんだ、ずいぶん遠いところまで流されてきたような気分だった。

私は高校2年の途中で宮崎県の県立高校に編入した。そこは県下有数の進学校で、3年の夏休みからは模擬テストの連続であった。男女共学でもあったので、何か違う世界に飛びこんできたような感じであった。何とか国公立大に進学できたものの、生来のなまけ癖のため、5年かかってやっと卒業できた。
大学卒業当時は鹿児島市に在住していたが、「お前は長男だから、君



▲古仁屋港 転載: <http://homepage2.nifty.com/1215/freeshashin.htm>

ぐらいいは島に帰れ」父親のこの一言で奄美大島に帰ってきたのが35年前のこと。もちろんすぐに「なんで僕だけ？」とくっつけてかかったが、「先祖のお墓や家を守ることは大変なことだ。お前はその大変なことをまだ年端もいかない弟や妹に丸投げするつもりなのか？」と切り返してきた。私は逆らうことが出来なかった。親父が怖かったからではない。それまでは口返答をすると決まってゲンコツが飛んできたものだが、その時だけは別だった。私を見る祈りを込めたような親父の目に逆らうことが出来なかった。

よ」と親父が腕組みをしながら待ち構えていた。それから3度、脱出を試みたが全て徒労に終わった。親父は「私は船が沖から見えなくなるまで、ここで見張っているからな」と睨んでくれた。「岸壁の母」ではなく「岸壁の父」であった。ああ、これもまた自分の運命なんだとあきらめ、島へ帰り地元の信用金庫に就職した。その後、30歳で結婚し1男2女に恵まれ、豊かではなかったが、平穩無事なサラリーマン生活であった。思えば私の親孝行は後にも先にも、初孫を見せたことだけだったような気がする。33歳になったある日、親父から「お前はいつまで島のボロ家をそのままにしておくつもりなのか？全部壊して建て替えろ」と電話があった。私は「転勤族には無用の長物だ」と反論したが「お前は昔から尻を叩かないと何もしなかった、わしの目の黒いうちに実行しろ」と言ってきた。今度は私は素直に父親の命令に従い、借金の怖さも知らず3階建てのビルを建てた。その時は親父が健在だったので、こんな大それたことが出来たのだろう。いやむしろ、自分の仕事の一部と想っていたような気がする。きっと親父も、自分の死期が近づいていることを悟っていたのだろうか？

その3年後、親父は鬼籍に入ってしまった。私が聞いた父の最期の言葉は「バカヤロー、馬鹿息子」だった。今でもその肉声が耳元に残っている。不甲斐ない息子に対する怒りのような、嘆きのような……。いったい何が言いたかったのか？何を伝えたかったのか……？

失って初めて初めて、その存在の大きさに愕然となり、不安の毎日でした。まるで道に迷い、右にも左にも前にも行けず、小さくうずくまっているような日々でした。

与論島に単身赴任していたときのことです、父の3年忌の法事の際に、母や兄弟たちが亡き父の夢の話を楽しそうにしていました。私はその会話に入ってゆけませんでした。なぜなら、私一人だけが父の夢を見ていなかったんです。ああ、親父はあの世に逝っても、私を許してくれないんだなあ、と思いました。しばらくして、その話のある婦人にすると、「あんたはとんでもない思い違いをしているよ」と忠告されました。彼女が言うことには「一番、思う子どもに、一番最後に夢を見せるんだよ」と、「あとを頼みに来るんだよ」とも、ものすごい衝撃でした。そんな考え方があるんだなあ、と、それなのに私は親を恨んだり、

愚痴をこぼしたり、本当に「バカヤロー、馬鹿息子」であったなあと自責の念にかられ、私は瀧のような自分の涙に立ってもいられず、信用金庫の黒い集金カバンを持ったまま、涙が止まるまで20分ぐらいその場じうずくまりました。

今思えば、その時に少し強くなれたような気がします。涙とともに目から鱗が落ちた瞬間でした。その1週間後、私ははじめて亡き父の夢を見ることが出来ました。夢の中で父は「富久、そろそろ歩き始める時じゃないか？」と私に諭してくれたのです。それから数ヶ月後、私は信用金庫を退職し、奄美大島にもどり、学習塾の講師をしながら昼夜を問わず働き、現在の事業にたどり着くことが出来ました。

結局、父の言葉に従いビルを建てたことが、今の仕事につながっているのです。そのビルの1階にブックスト番館という書店をつくり、そこを皮切りに現在は、奄美大島で3店の書店を営み、小さな映画館もやっております。経営的には決して余裕はありませんが、それでも無力な私に出来る業（わざ）ではありません。亡き父は魂となった今も、愚かな私を見守り、導いてくれているんだと実感しております。

私の心情を趣味である短歌にしましたので2、3紹介します。

直向な 亜子の眼差し 畏ろしき

何も恐れず 何もうたがわず

今もなお 迷えるわれに 道を説く

ありがたきかな 亡き父の声

親を責め すねてひがんで 困らせた

ありがどうとも 言えないままに

風鈴の 音色もかなし おくり盆

かえらぬ人の なぐさめにも似て

逢えなくて 携帯電話の メモリーが

消せないままに 消せないままに

奄美大島は昨年10月、古今未曾有の水害を被り、弊社も被災いたしました。そこで全国の先輩方、後輩の諸君にお願いがあります。本を買う時はインターネットを開き、Amazonと入力し検索して下さい。そして、マイ書店を鹿児島県の奄美市ブックス十番館プラス1店に登録すれば、東京の本の間屋さんから本が指定の場所に直送されます。
送料は弊社負担ですので1円もかかりません。代引き決済がカード決済をご指定下さい。

50万冊の中から選べますし、本土であれば、2・3日で届きます。今後ともブックス十番館をよろしくお願ひ申しあげます。

※左記連絡先です。

〒894-0017

奄美市名瀬石橋町10-1

ブックス十番館

☎0997-54-0010

奄美支部便り

深イイ話し



奄美支部 田下三佐男

「ミサオ、奇跡のおこったバイ！ 神様

はやっぱりおらスツとバイな〜!? 高原先生のお母さんが洗礼ば受けナッタよ！」と、トンビさんが興奮気味である。

(30分ほど前、洗礼を授けた神父も興奮して話してくれましたよ) 何が起るかは判らなかつたが、なにか不思議な予感ほしていた。

長崎聖フランシスコ病院のホスピスで高原先生にお会いした。10年前同じ場所で、故川瀧明神父にもお会いした。どちらも、残された人生の貴重な時間を祈りのうちに静かに過しておられたように思います。まもなくやってくる最期のときを、それほど気にすることもなく、出会う人にこれまで以上に丁寧に対応されて、優しく語り掛けるその自然な笑顔がいまでも忘れられない。(アンタも病氣ばして大変だろうに、こげんナ遠いとこまでよう来てくれてありがどう) お見舞いに行つたはずが、反対に見舞われてしまった。

昨年6月、かつての青年会と聖母の騎士同窓会の合同企画で故高原先生を偲ぶ会があり参加させて頂いた。浦上天主堂の被爆マリヤ聖堂でミサがあり、その後お茶会になった。この集いに佐世保から来られた司祭が、かつて洗礼を受けた頃の高原青年を詳細に紹介され、当時青年会で積極的に活躍されていたようです。聖母の騎士学園で学んでいた頃、まさかこの先生が教会の信者であるとは思っていませんでしたから、あらためて驚きました。

私たちが窺い知らないところで多くの方が、先生のお世話になっていたようです。ミサの共同祈願でも感謝の言葉が殆どでした。(主よ、高原秀彦さんに永遠の安らぎを……) ところが、高原さんのお母さんに……と言う祈願はなかつた。恐らく、これらの祈りはストリートにある世にいる先生にも届き、恐縮した

先生が目前の神様に直接願つたであろうことは、子どもとして最期まで気になっていた高齢で寝たきりの母親のことだったのでしよう。そこで、憐れみ深い主の応えが洗礼という最高の恵みとなって、この世の私たちにも見える形になったという事ではないのでしょうか。

2千年前、安息日の朝早く墓に出かけ、入り口の大きな石が取り払われ中から(ここにイエスは居ません復活されました)と言われ、慌てて仲間のところ帰って来て感動を伝えた人々と、この度の出来事に関わった方々に、なにか重なるものを感じてしまいました。

心から願うなら必ず叶えられる。被爆のマリヤ聖堂での追悼ミサを通して、聖母は全ての祈願を丁寧に取り次いで下さり、結果この奇跡的な洗礼は、御父の粋な計らいだったのかも知れない。



▲被爆のマリヤ聖堂での追悼ミサ

2010 nendo 奄美支部の 活動この1年 AMAMI-SHIBU

●同窓会奄美支部 役員の紹介

会 長: 近藤芳弥
 副 会 長: 配山尚幸、山田誠一郎、栄 隆之
 会 計: 山田 明
 事 務 局: 田下三佐男
 会計監査: 押川文隆、白石信録
 顧 問: 柳本繁春、榊 修、松永正男、
 平 隆之、田下幸次、久保聖一

●総会

平成22年5月23日
 マリア教会、ゼローム館で総会を行う。
 前年度の事業報告、決算報告、監査報告、予算の承認。田下幸次の転居に伴い、残りの任期につき会長を久保聖一に変更する役員の決議。田下幸次は顧問に就任する。今年度の事業予定を承認。総会終了後、懇親会。

●物故者

平成23年5月14日
 故叶信一 “シン坊”
 思い出のアルバム



平成20年度奄美支部会

●聖コルベ記念ミサ

平成22年8月14日
 マリア教会で同窓会奄美支部主催の記念ミサ



●命日記念ミサ

平成23年3月4日
 ゼローム神父
 2003・3・19 帰天
 ラファエル森井美修道士
 1983・3・4 帰天



ラファエルさんの姉夫婦から丁寧なお礼を頂いた。

●一時帰国

平成22年10月
 久保芳一神父が、アフリカ・ザンビアから一時帰国しました。



当時、奄美は豪雨災害中でした。(マリア教会でミサ)

●忘年会

平成22年11月28日
 カメラを忘れたので、忘年会の写真は
 ありません



チャリティーバザーの後、名瀬市内で忘年会をしました。はるか巻きの、押川遥さんを招いての慰労会もしました。来年もバザーにはご協力頂けることに。
 写真は、自宅でもき割りをする遥さん



草刈りの奉仕作業

平成22年5月30日



総会の翌週に行われた、希望の星学園の草刈作業は、時間通りに開始して予定通りに終了した。クリストロア宣教修道女会が経営母体の施設、この開設には、かつてゼローム神父が尽力された。現在の天皇陛下が皇太子時代に、訪問されたこともある。

チャリティーバザー

平成22年11月28日
聖母の騎士学園奨学基金のために奉仕活動



あく巻き作りは、大釜2基を4時間連続で煮炊きするための膨大な量のマキの調達から始まりました。近藤社長が2トン車を自ら運転し、配山社長の倉庫で切り揃えて保管、雨の合間に、大熊の押川邸に運び込んだ。チャッカリ持ち出されたが・・・



前晩から浸けおいたモチ米を木綿の袋に規定量を詰め込み沸騰した大釜に灰汁と投入し焦げ付きに注意しながららったり2時間の連続沸騰。



これだよ!!



こんなに美味しいものだったんだ! 本物はやっぱり違うんだな~!! これなら自信もって売れるぞ! 帰り際しっかりお土産に頂きました。

販売用は、ステッカーを貼ってパック詰めをしました。



販売用午前10時開店。天気快晴、準備万端。



応援に駆けつけた婦人たち

平国光さん自慢の無農薬の野菜が大人気!



手作りのポスター、呼び込みに一役。

ペンダントとロザリオの品定め。



池田尚志さんのおしゃれ傘は大人気!



孝春社長の売り込み。アットが綺麗な傘。上天気に完売した!?

昨年にも続き成功。来年も実施予定!



聖母の騎士の応援するからヨ!

イギリス便り 英国からのレポート

奄美支部 勸 倫太郎

聖母の騎士の先輩後輩の皆様、おひさしぶりです。

まず初めに、東日本大震災の被災者の方々に、お見舞い申し上げます。それから、犠牲になられた方々、そしてご遺族の方々に對して、深くお悔やみ申し上げます。

私の近況をお伝えしたいと思います。作業療法士修士課程の最後の職務実習が始まりました。

コースが始まってから、もう一年半が過ぎ、この職務実習が最後の実習で、12月にはコースが終了します。最初の実習は病院のリハビリテーションでした。ここでは、患者さんたちが退院するまでに、家の環境を安全にするのが主な仕事でした。二番目は、地域で精神障害を患っている方々を対象とした実習でした。三番目は、医療現場における木材を利用した手工芸を通してのリハビリテーションの職務実習でした。身体障害から精神障害と、様々なクライアントと接することが出来ました。

今回は、Conwyという私の住んでいる州の自治体の社会福祉課が、



▲倫太郎と奥さんのアンケさん

仕事場になりました。地域の障害者の方々を対象にして働いています。

英国では、作業療法士はあまりよく知られてなく、よく理学療法士と間違えられます。作業療法は、手工芸を利用したりリハビリテーションや福祉用具を提供したりと、身体障害の分野から精神障害の分野まで幅広く利用されています。自治体での作業療法士の役割は、主に査定することです。障害を持った人たちを訪問して、その環境や障害を査定し、自治体からの援助がどの程度必要なのかを調査します。作業療法士が査定する分野は複数あります。

最も重要な査定分野は、障害者のヘルスケアのニーズを調査し、そのニーズをどれだけ安全で、対費用効

果の高い介入手段は何かを調査することです。これは、英国の法律で、地方自治体は、地域の障害者及び介護者の福祉的支援を提供する責任があり、作業療法士はその支援がどの程度必要なのかを査定するのが、法律で定められています。

その他にも、障害者の持つ障害が、どの程度日常生活活動に影響をもたらしているかを調べる必要があります。そして、障害者だけではなく、その介護者も福祉的支援を受ける権利があり、その介護者のニーズを査定する必要があります。それが、作業療法士になります。

作業療法の介入手段の一つは、福祉用具を提供することです。そのため、その福祉用具が障害者や看護に携わる方々へもたらず危険性を調査するのが、私の職務の一つです。

職務実習が始まってから4週間目が終わりました。それでも、毎日私にとって新しい事や知らない事が沢山あり、色々学ぶ機会があります。それから、何を学ぶ機会を失わないように、自分自身にあと8週間しかないと言いつけています。

その他に、日常生活面では、日本

食がとても恋しくなり、日本の炊飯器を買って日本米を食べたり、現地で仕入れられる材料を集めて日本食を調理したりしています。

私の妻（ドイツ人のアンケ・写真）に、日本食を紹介しました。幸運なことに、日本食が好きなようです。

それから、最近よく近所の方々と出会う人たちに、私が日本人だと知ると、震災の事について色々質問されます。その中で、恐らく一番多く英国人から言われたのは、日本の復旧力のすばらしさでした。道路復旧の速さは特に英国のメディアでは注目され、感銘を受けていました。震災からの一日も早い復旧を、お祈りします。

日本語を使う機会がほとんど無いため、英和辞書を使って書きました。申し訳ございません。それから、このような機会を頂き、本当にありがとうございます。末筆ながら、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



活躍するOBたち

おーびー ◆ミニ特集・その2



むすび

長崎市 金子泰彦

皆さん、こんにちは。思いも寄らぬ原稿依頼で少々戸惑っています。が、良い経験と思いい、お受けさせて頂きました。

まず、私の近況と致しましては、現在は長崎市矢上町に鎮座している矢上神社に於いて神主をしております。この会報をお読みの大半の卒業生の皆さんは、当然、「なぜ」という疑問を持たれると思います。私は神社の神主の家に育ちましたが、縁あって高校3年間を聖母の騎士でお世話になりました。大学を卒業して、少し遠回りをして現在の仕事を始めましたので、神主としてはまだ10年程しか経ちませんが、仕事をしている中で高校時代の3年間が活かされる時があります。

日本には、昔から「むすび」という考え方があり、よく「縁結び」などと、「結び」という文字を充てられることが一般的ですが、「産すび」という文字を以て、「結び」と読む事もあります。つまり、何かを生み

出すという意味もあるのです。私の場合は、長崎独特の宗教観・文化の助けもあったのか、日本で昔から信仰されている神様と、当初は異国の地で信仰されていた神様との不思議な縁に結ばれて、今の私の仕事のスタイルが出来たのではないかと感じています。

在学中のことを思い出すと、少人数制ということもあり、3年間同じメンバーとの思い出がたくさん思い出されます。卒業後は同級生全員が顔を合わせるという機会を設けることがなかなか叶わないですが、それでも他の学校とは異なり、同級生の殆どが集まって在学当時の思い出を語る機会は設けやすく、また、互いの連絡が取り易いというのは、全国を探してもそうは見つからない特色を持ち合わせている学校ではないかと思えますし、さらに、他の学校に負けない創立からの歴史を持つ聖母の騎士を卒業できたことを誇りに思っています。私は、これからもこの不思議な縁を大切にしていきたいと考えています。

最後に、感謝するという気持ちを

持つことは、大半の宗教に共通していることではないかと思えます。私は、聖母の騎士という学校と縁があったことを感謝したいと思います。

痛みの時代の中で

霊水キリスト教会牧師 森 崇

2011年は聖母の騎士高等学校を卒業して8年となるが、同時にキリスト教プロテスタントの信者となって8年目になる。今現在は西南学院大学神学部での学びを終え、佐賀県庁近くにある霊水キリスト教会牧師として3年目の歩みの最中である。神学部卒業間際に母校に挨拶に行くと、「牧師??お前が!?!」と数年前と変わらぬ教諭に言われた。本当にその通りであると自分も思う。

キリスト教とは何の縁もなかった家系だったが、それでも聖母の騎士高校に入学することが出来たのは、当時の自分を心配してくれた両親の計らいがあったからだ。思い描いた高校進学とは違う道であり、半ば強制的であったが、渋々聖母の騎士に入学した。そこで私は初めてキリスト教に触れたのである。当時はセミナリオ(小神学校)の他に普通科の学生が住む寮があった。普通の寮で

あったが、朝六時半からのミサを眠たい目をこすりながら受け、また就寝前にも祈りが行われた。本当に眠かった。また日曜日には本河内の聖堂に行き、高い聖堂の中でミサに与ったのを良く覚えている。寮生活は楽しくもあり、また辛くもあった。挫けそうになったとき、本校3階のチャペルの後ろにあったアコースティックギターに弦をはって何度も爪弾いた。その時に泣きながら弾きながら歌った讃美が今の自分を形作ったのだと確信している。

高校生の時、聖堂の中で一つ疑問だったことは、十字架を見上げたときに、イエス・キリストが茨の冠を付け、傷んだ姿で十字架に掛かっていたことである。「我が神、我が神、なぜ私をお見捨てになったのですか」と叫ばれたイエス様の受難の姿を見るに絶えなかつたのである。当時の私には苦しみの中におかれ続ける人生は見るに絶えなかつた。イエス様は今なお、痛みの中に置かれたままなのか、その疑問があった。しかし、長崎に遣わされる中でひとつの教会との出会いが与えられた。諏訪神社電停近くにある長崎バプテスト教会である。教会の玄関が空いており、丁度玄関から中の礼拝堂が見えた。そこには大きな十字架が

聖母の騎士学園同窓会
(本部役員名簿)

会長	大石 諭
副会長	石田 光勝
書記	小島 正人
会計	赤尾 城司
顧問	崎濱 宏美
	水浦 久之
監査	峰 徹
事務局	熊川 武俊
理事	木場田友次
	里脇 岩男
	窄口 富行
	吉岡 繁信
	松本 修
	山村 幸雄
	梅木 修
	松下 昭征
	内野 洋平
	大水 恵一
	山浦 義春
	竹内 松雄
	辻 太

けられていたが、その十字架にはイエス・キリストの姿は無かった。「あの方は復活されてもうここにはおられない」(マルコ16:6)のだった。

その後日曜日には長崎教会の礼拝に与かるようになり、聖母の騎士を卒業した2003年8月10日に浸礼を受けた。そして浸礼と同時に与えられた献身の思いを抱きつつ学びを深め、佐賀の地で牧師として立つに至ったのである。今牧師として立たせていただく中で、この世の中にはどうしようもない痛みがあり、また叫びがあるということに気づかされている。そのような痛みに寄り添いたいと心から願うのだが、それもまた難しいことであると感ずる。人にはその業は難しい。しかし、「神様などおられないではないか！」そのような状況の中で、イエス様もまた十字架上で叫ばれた言葉を思い返すときに、私たちにはひとつの慰めが

与えられる。痛まれた、叫ばれたイエス様は、死よりよみがえり、復活されておられる。復活された足で我々と共に歩まれておられる。深い深い痛みと叫びとを経験された彼が今、共におられる。そのことが私たちの喜びであり、この喜びを悲しみと痛みの深淵に置かれている人々に伝え、また共感することこそが生かされている使命だと感じている。

アッシジのフランシスコの祈りが今実現されることを心より信じて祈りつつ。

「神よ わたしをあなたの平和のために用いて下さい。憎しみあるところに愛を、争いのあるところに和解を、分裂のあるところに一致を疑いのあるところに真実を、絶望のあるところに希望を、悲しみのあるところに光をもたらすことができますように助け導いて下さい」(「平和の祈り」抜粋)

平成23年度 予算計画書

摘要	収入	支出	残高
繰越金	1,024,711		
会費	400,000		
入会金	31,000		
奨学金		120,000	
クラブ活動援助費		50,000	
会報送料・通信費		70,000	
会報印刷費		200,000	
会議費		5,000	
学園劇援助費		50,000	
予備費(花代等)		50,000	
合計	1,455,711	545,000	910,711

平成22年度 決算報告書

摘要	収入	支出	残高
前年度繰越金	807,192		
会費	645,000		
懇親会会費収入	68,000		
入会金	73,000		
クラブ援助費		40,000	
奨学金		120,000	
送料等		57,470	
会報誌代		207,900	
御ミサお礼		10,000	
懇親会費用		73,300	
封筒代		9,160	
会議費		1,300	
葬儀花代等		49,351	
※古川神父様、高原先生、吉田教頭父上、大石会長父上			
合計	1,593,192	568,481	1,024,711
※残高内訳(現金 58,392、郵便預金 965,200、親和預金 1,119)			

原・稿・募・集!!

近況報告を兼ねて「英彦の泉」に投稿してみませんか。同窓生ならどなたでも構いません。思い出、雑感等々、何でも結構です。是非、ご協力下さい。



事務局より

●平成23年度学年理事

狩野祐輔君。バドミントン部に属し、生徒会長でもありました。

●同窓会奨学生

今年度は、奨学金制度が始まって以来初めて応募者がゼロでした。必要とする家庭があるはずなのですが、一体どうしたんでしょう。今年度は、援助が必要となった生徒には中途で採用していこうと思います。予算も12万円計上しています。

●住所変更の際は連絡を!

時々、「オイン所は会報の来た事んナカぞ!」というお叱りを受けることがあります。同窓会本部では、住所を把握している同窓生全てに会報を送っていますが、住所変更の連絡をせず、前記のようなことを仰る方もいらっしゃいます。

「引越しの連絡をしてくれればいいじゃないか!」と心の中で思いつつながら、じつと耐えている事もしばしば……。先輩には逆らえませんが、毎年たくさんの方の会報が、「転居先不明」で戻ってきま

す。勿体ないですねえ。引越したら、御連絡を!

●「各界で活躍する同窓生」

自薦、他薦、いずれでも結構です。様々な場所、たとえば、教会、ボランティア、企業、その他で活躍している卒業生をご存じでしたら、是非ご紹介下さい。

●ワンピース

「サウザンド・サニー号」

写真にあります人気漫画のワンピースのサウザンド・サニー号は佐世保のハウステンボスで周航しています。実を言うと、これは同窓生の里脇岩男さんが経営されている「里脇製作所」が作成したものです。ハウステンボスご入場の折には、一度ご乗船いただければと思います。

(大石 諭)



▲サウザンドサニー号 (佐世保市のハウステンボス)

●三便り

※このコーナーは、会員の皆様が振り込み用紙に書いて下さったお便りを紹介しています。これからも大いにご利用願います。(敬称略)

.....

▼同窓会々報「英彦の泉」を毎年送って頂き、有り難うございます。

多感な中学生の時を過ごした聖母の騎士学園、懐かしく思われます。会費を送ります。 奄美市 池田尚志

▼いつも有り難うございます。素晴らしい紙面に、思わず読みふけてしまいました。 湯江修道院 松尾豊樹 修道士

▼体の調子が思わしくなく、総会には出席できそうにありません。同窓生によりしくお伝え下さい。 長崎市 坂谷光雄

▼保育士2年目です。休みが少なく、忙しい日々ですが、何とか頑張っています。 長崎市 廣島智徳

▼2000年に主人(山野正久)は帰天致しました。その際、お香典の一部を聖母の騎士修道院と学園(崎濱校長先生宛)に、それぞれ寄付をさせて頂きました。大変申し訳ござ

いませんが、主人もいなかったので、今回の寄付にて同窓会々報も終了させて頂きたくお願い申し上げます。どうぞ、貴同窓会のご発展が、神様のみ旨の中にありますようにお祈り申し上げます。 八王子市 山野佑子

▼現代の愛の殉教者、家庭の保護者となられた聖コルベの精神を受け継ぐ聖母の騎士学園。その学園を草の根運動で力強く支えている同窓会各位の皆さんに、心から感謝しています。特に役員の皆さんを中心に意義深い奨学金活動などを「英彦の泉」で拝見しています。今後とも同窓会々員各位のご健勝とご多幸とご活動の上に、主の豊かな祝福と豊かな実りをお祈りしています。 小長井町 末吉矢作 神父

▼新会長のもとで、素晴らしい歴史を作る為に頑張りましょう。心からお祈り申し上げます。 長崎市 岡 満義

▼息子、勇太郎と2人分、及び、重昭の昨年分です。宜しくお願ひします。 峯重昭、勇太郎

▼終戦記念日が来るたびに歳を数えています。66才になりました。すつ

かり老人の仲間になりました。時間ある毎に孫と散歩へ。また、日々学童保育所の子供達と遊んでいます。「学童保育所日和」という本を出しました。

大牟田市 泊 秀信

▼私たちがいつの間にか古希を迎えました。先に天国へ召された者、病気で出席できない人もいますが、毎年1回、押川司教を囲んで同級会を行っています。今年は佐世保で集まり、平戸方面の教会巡りの巡礼です。夫婦連れで楽しい集まりです。

鎌倉市 平松壽護

▼奄美大島の丸田宗八郎です。「英彦の泉」同窓会々報、感謝です。全ての会員の皆様、ワールドカップのように、個人で積み立てをして長崎に集まりましょう。全て卒業生が集まれば圧巻だと思います。

奄美市 丸田宗八郎

▼何時も、有り難うございます。

鹿嶋市 平松 弘

▼楽しく読ませて頂いております。

鹿児島市 鶴田晃士

▼「英彦の泉」、有り難うございました。奄美支部のご活躍に圧倒され

ました。又、古川校長神父様の思い出など、懐かしく拝読させて頂きました。特に、故明松神父様の事を思い、胸が熱くなりました。

寝屋川市 萩原儀一

▼「英彦の泉」は、温泉に浸かっているような至福のひとときを与えてくれます。心が安らぎます。有り難うございました。桶川市 斉藤 優

編集後記



「英彦の泉」第15号をお届けします。以前、海外で活躍する同窓生を集めた事がありますが、記憶にございますでしょうか。思いのほか好評でした。2匹目のドジョウを狙った訳ではありませんが、今回から、「ミニ特集として「各界で活躍する同窓生」を組んでみようと考えています。第1弾は、本校卒業後、神社の神官、それからプロテスタントの牧師となられたお二人を紹介しました。なかなか興味深かったのではないのでしょうか。

今年、2年に一度の「学園劇」があります。そこで、「ミニ特集の第2弾」として、過去に出演した生徒に当時の

思い出を書いて貰いました。

まず、一人目は東拓郎君。コルベ神父生誕百周年記念公演の『愛の騎士道』でゼノ修道士を演じました。日頃小さな声でしか話さない、とてもおとなしい生徒でしたが、練習を通して見事に変身し、本番ではダイナミックで、ちょっとしたぼけたゼノさんを見事に演じていた事を覚えていてます。

二人目は、小林太一君。26聖人殉教四百周年記念公演『風花の丘』で石田三成を演じました。劇に対し真剣に向き合いながら役作りをし、ひたむきな演技で感動を与えてくれた事を覚えています。これが癖になり、大学では演劇部で活躍したそうです。

さて、これまで劇に出演した生徒達を見てきて感じる事は、この両名だけでなく、「学園劇は生徒たちを変える」という事です。大きな声を出し、自分

23年度総会・懇親会のお知らせ

10月8日(日)開催
会場 ホテルセントポール長崎
(原爆資料館前)

総会 17時30分～
懇親会 18時30分～

会費

一般 5,000円
学生、75才以上 3,000円
聖職者 御招待



参加お申し込みをされる方は、別紙申込用紙をFAXか郵送していただくか、下記メールアドレスに御連絡下さい。

toshi_dominic_kumagawa@yahoo.co.jp

※ホテルセントポール長崎について
〒852-8117長崎市平野町4-16
☎095-848-0228
宿泊 5,000円(朝食付き)

の潜在能力を引き出し、考え、そしてそれを実行に移す。自ら試行錯誤を繰り返し、とにかく一生涯懸命にやり通す事など、その一連の行為が、知らぬ間に生徒たちを自信たっぷりの人間に変えてしまっている事を感じるのです。「チェンジ」ですね。これは、本校の人間教育の大きな特質だと思います。

今年、崎濱宏美管区長脚本による『アシジの聖フランシスコ物語』が上演されます。是非、沢山の方に観劇して頂きたいです。それから、これまでの劇に係わった卒業生の皆さん。当時の感動を語り合うのもたまには良いんじゃないでしょうか？

総会・親睦会では是非会いたいものです。総会・親睦会は、10月8日の土曜日。そして、学園劇は、11月16日の水曜日です。待っています。(くまがわ)